

スカイ

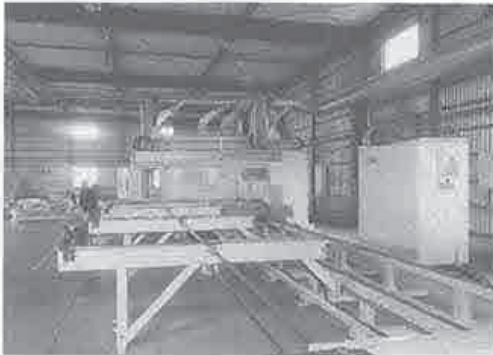
広範な需要に総合対応

新しい加工ラインを整備

スカイ(静岡県磐田市、高橋幸嗣社長)は、これまでに段階的な設備投資を進め、2エリア6工場に生産効率の高いラインを集約している。2014年末にはCLTなど大断面材に対応できる全自動6軸フルプレカット加工ラインを導入し、今年から本格稼働に入

る。住宅から公共建築加工している。付帯設備も充実しており、大等まで、広範な領域の需要に配送面も独自に合理化しつつ対応していくこと。これを総合プレカット事業者としての付加価値にしている。

また、自社開発の豊岡エリアで本社工場と豊岡太郎馬工場を、船明エリアで羽柄工場、合板工場、柱工場などを運営し、年間約12万坪(14年実績)を



CLT等に対応する全自動6軸加工機(豊岡太郎馬工場)

を越えた先進性が光る。

今後の戦略は大規模な木造建築をはじめとする広範な需要への対応で、この一環として導入されたのがユニチーム(イタリア)製の全自動6軸加工機だ。一般建築材からCLT、大断面材、アール梁、階段等まで多

様な変形加工ができる超汎用機であり、最大で材厚600×材せい3000、全長14州規格のBTLフォーマットを軸にしつつ、優秀なCAMに加え、大型木造物件の構造計

画に基づいた金物工法の入力・加工を効率化している。今後は各方面へプレゼンを進め、総合対応力をアピールしていく方針だ。